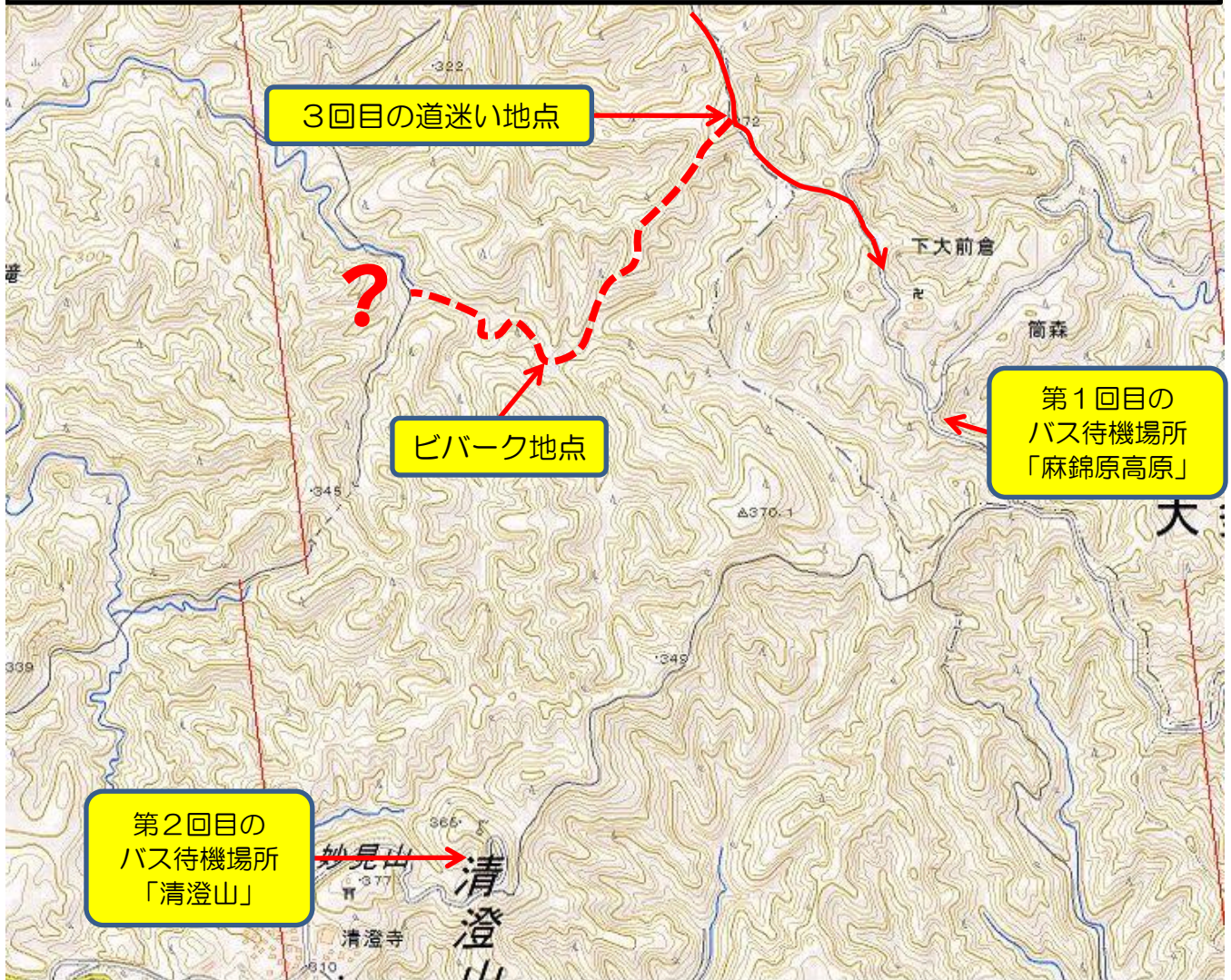


## 石尊山道迷い(2003年11月)

中高年の30人グループが日帰り登山でその日に下山できず、翌日に自力下山した。些細なアクシデントの積み重ねであった。マスコミが「大量遭難」として騒ぎ出し、大きく報道されてしまう。リーダーは適切な判断を行い、全員無事に下山したが、マスコミはそれを許してくれない。ある人は「マスコミ遭難」と言われた



## 解説

千葉の内陸部の山は地形が複雑で、冒険心をくすぐる。国土地理院25000分の1地形図にこのコースを示す波線は記載されていない。今回のコースは、地図の読図も楽しみだった。途中で、小さな道迷いを2回したがすぐに道迷いに気がつき正しい道に修正した。1回目の道迷いは、時間的にもゆとりがあり、読図を楽しんだため時間を費やした。

目的地の「麻錦原高原」は通行止めでバスが通れないため、「清澄山」へ変更した。3回目の道迷いで、古い参道に間違えて入ったと思ったが、事前に役場にルートを確認したところ、「清澄山」への道は3本のルートがあることを確認していたため古い参道でも「行っちゃえ！」となってしまった。尾根を下り、沢に出た。その沢道は崩壊しており、時間はかかったが林道に辿り着いた。林道はどこにつながっているのかわからないため、再び沢に戻り、ビバークを決める。低山とはいえ11月は寒いのでたき火をして一夜を過ごした。林道を数人先行させ無事を伝えなかったのはメンバーがバラバラになることを防ぐ目的があった。

翌日、自力下山をしたが、マスコミから執拗にバッシングを浴びた。全員無事に下山。リーダーが正しい行動をとった結果である。